

第9回 協働のまちづくり推進委員会

日 時：平成27年3月26日（木）18:30

場 所：八戸市庁別館7階 会議室A

本会議の結果概要を、次のとおり報告する。

■ 会議概要について

- 平成27年度「元気な八戸づくり」奨励金対象事業書類審査会
 - ・平成27年度奨励金対象事業（12件）の書類審査、及び意見交換を実施。
 - ・上記意見交換を基に、市民奨励金公開ヒアリング審査会（4/18開催）における質問事項について検討。（詳細は議事録のとおり。）

■ 今後のスケジュールについて

◇4月18日（土） 平成27年度 市民奨励金 公開ヒアリング審査会

12:30～ 市庁別館7階 会議室A

- ・事前打合せ 審査会の流れの確認など

13:00～ 市庁別館8階 研修室

- ・審査会 「元気な八戸づくり」市民奨励金のH27年度事業（12件）

◇4月23日（木） 平成26年度 市民奨励金事業の評価

18:30～ 八戸商工会館6階 八戸市会議室B

- ・評価 活動成果発表会総評の検討など

◇5月17日（日） 平成26年度実施事業 協働のまちづくり「活動成果発表会」

13:00～ 八戸ポータルミュージアムはっち5階レジデンスB

- ・事前打合せ 発表会の流れの確認など

13:30～ 八戸ポータルミュージアムはっち1階 はっちひろば

- ・発表会
- ・市民奨励金 H26年度交付事業（6件）
- ・市民提案制度 1件

■ 出席者（敬称略）

○協働のまちづくり推進委員会（6名）

- ・北向 秀幸 委員長
- ・佐藤 博幸 副委員長
- ・五戸 保夫 委員
- ・齊藤 綾美 委員
- ・田頭 順子 委員
- ・江刺家 一弘 委員
- ・市民連携推進課（4名）

第9回 八戸市協働のまちづくり推進委員会

(平成27年度奨励金対象事業書類審査会)

日時：平成27年3月26日(木) 18:30

場所：八戸市庁別館7階 会議室A

次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 案件
平成27年度「元気な八戸づくり」市民奨励金対象事業の書類審査
- 4 その他
今後のスケジュールについて
- 5 閉会

次第1. 開 会

(司会：事務局)

次第2. 委員長あいさつ

- ・皆さんこんばんは。今年度最後の委員会となりました。9回目ですけれども、9回の開催というのはかなり多い方で、昔よりも開催回数が増えているという話を事務局ともしていたところ です。
- ・しかも今日は案件が多いということで、最後の最後に皆さんにご苦労というか、お時間をたくさんいただく件数で、これはもちろん大変うれしいことであるのですが、時間もかかるかと思うので、少し工夫させていただく形となるかなと思います。
- ・今回は書類審査になりますので、目を通していただいて、今日の結果を受けてこの次にヒアリングということで、そういった流れを皆さんにご理解いただいた上で、よい意見を出していただければと思います。今日はよろしくお願いします。

次第3. 平成27年度「元気な八戸づくり」市民奨励金対象事業の書類審査

○事務局より、以下の事項について確認。

- ・審査基準の確認
- ・応募状況と審査不参加委員の確認（まちづくり支援コース「八戸地域社会研究会」に係っているため委員がいるため当該委員は、当団体の審査は不参加。）

○平成27年度奨励金事業に対する書類審査結果をまとめた資料に基づき、事務局よりポイントを絞って説明。

○市民奨励金各コース事業（初動期支援コース7件、まちづくり支援コース5件）についてそれぞれ仮採点の上位団体から順に意見交換を実施。

○上記意見交換を基に、市民奨励金公開ヒアリング審査会(4/18開催)における質問事項を確認。

仮採点1位 高館地区連合町内会

「目指せ！地域の星☆高館OJT【地域リーダー育成プログラム】」

■ 事務局

- ・まちづくり支援コース3番になります。仮採点で38.6点を獲得しています。
- ・プラス評価の意見として、「青年部の取り組みは、役員後継者不足に悩む町内会のモデルケースになり得る貴重な取り組みである。」「成功すれば他地域のモデルになり得るか。」という意見がありました。
- ・マイナス評価の意見はほとんどありませんでしたが、「資金面では助成に頼る。ただしユニフォームは今後も使える。」という意見がありました。
- ・これに対し、「自主的に進める事業で基盤整備の事業であり、助成金のみで頼った事業ではないと思う。」という意見も見られました。以上です。

■ 委員長

- ・皆さんからご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

■ 委員

- ・青年部を組織したということですが、この組織の中での青年部の位置づけはどのようになっているのか。いろいろな部組織があるかと思うのですが、トップに（連合）会長さんがいてその下にくるのか、それとも横に飛び出す形で独自に活動を行えるような組織体となっているのか。その辺がこの提案書の中ではわかりませんでした。

■ 事務局

- ・連合町内会の中の下部組織となっています。どちらかというと今のところは連合町内会長の直轄組織のようなイメージかと思っています。

■ 委員

- ・普通は連合町内会があって、その中に各単位町内会があるわけですがけれども、その下にはつかないで、直轄組織のような感じなのでしょうかね。

■ 事務局

- ・どちらからというイメージで指導したり訓練したりやっていく感じです。

■ 委員長

- ・立ち上げたのは平成26年9月ということですので、その質問をかければ団体から返答はくると思うのですが、直轄かどうかまでは提案書には書いていないですね。

■ 委員

- ・何年か前までは連合町内会があって、婦人部があったり、青年部があったりしましたよね。その流れで復活したのかなと受け止めていました。組織の中での位置づけについては、この提案書からは見えなかったのですが、まだ婦人部があるところはありますけれども、青年部はほとんどなくなっています。そういう、青年部が婦人部と対等な形で復活したのかなと思

っていました。必要があって復活させたということですよ。ですから、私はバックアップしたいな、応援したいなという気持ちが強いのですけれども。

- ・ 発展性の中にありますように、みんな地域の課題を抱えている中で、何かやってみようよという意欲を感じるし、これがうまく育っていけば面白いだろうなという期待感もあります。

■ 委員長

- ・ 青年部自体の過去の位置づけというのが私はわからないところがありまして。●●委員は経験の中であったんでしょうけれども。

■ 委員

- ・ 昔少しお手伝いしたことがあるものですから。

■ 委員長

- ・ 青年部自体は今回は明らかに人材育成が目的といった、ある意味プロジェクトなんですよ、主旨とすれば。なので、下部組織というよりも目的があって組織されたものかな。会長直轄かどうかというのはわからないですけども、イメージとすればプロジェクトですよ。
- ・ プロジェクトといえば、研修というわけではないが、横断的に動くというか、活動とすれば若い人たちで活動してみようということになるんでしょうね。

■ 委員

- ・ そういうプロジェクト、横断組織のように動くことができれば、発展性がある面白いなという感じを受けています。

■ 委員

- ・ リーダー研修会をやって育てるのではなくて、実際に地域で活動して動かしながら育てていくという。地域の環境整備だとか、地域の歴史を学ぶとか、広報誌を発行するとか、活動しながらスポットを当てて行こうという意図的なことが見えるので、十分に活かせるのではないのかなという気がしていました。

■ 委員

- ・ 市内もそうだと思いますが、高齢化している町内が多くて、また町内会に加入していないという地域がある中、若い人たち、青年が地域の学校とか防犯とかいろいろなことに関わることによって、町内会っていいなという、若い人たちがいいなと思って、じゃあ自分もやってみようということが発信できれば、市内の町内活動にとってもとてもよい事案になるのではないかと思うので、この計画はすごくよいことだと思うので、是非実践して効果を上げて発信することで、じゃあうちの町内もそれをやってみようかなということもできるのかなということで、大変よい企画だなと思っていました。

■ 委員長

- ・ なかなか今はこうならないものですからね、青年部というものは。私も各団体の青年部に入っていますが、あと数年で青年部に入れなくなる歳になってしまうので、早いものだなと思うのですけれども、なかなかそういう風にはならないものですからね。
- ・ 活動はレッスン1、レッスン2という具合に教育的な表現にはなっていますが、実際に活動が終わったあとに、皆でああだったね、こうだったね、と意見交換する場があるだけで、若い人たちというか40代までの人たちでコミュニケーションすることで、次に行こうと。
- ・ やっていることも大事でしょうけど、そのくらいの年代の人だけのコミュニケーションを意図的に作ろうということをやろうとしているのですね。

■ 委員

- ・ 30代～40代までは青年部で勉強して、50代になったらそれぞれの地区でリーダーとなって活躍してもらおうということですが、青年って40代までなのでしょうか。

■ 委員長

- ・ そういうことになっていて。団体の定義ですからね。

■ 委員

- ・ 青年といっても50代の人が入っている場合もあるものですから。50代といっても59歳までが50代ですから、どうなのだろうと。

■ 委員長

- ・ 私の所属する団体は2つありますが、2つとも50歳が定年です。

■ 委員

- ・ 早すぎますよね。

■ 委員

- ・ 多賀台の場合、青年部はないけれども体育部という名称で似たような活動をしている団体があるのですが、だんだん高齢化が進んできていまして…。50歳定年というものがなくて、皆60歳を超えてもそういう活動をしなければならないので、50歳定年というものはいいなと思って見ておりました。定年を決めてしまって若い人に代わっていかないとずっと残ってしまう。そういった意味でもおもしろい活動だと思っていました。

■ 委員長

- ・ たくさんご意見がありますが、プラスの意見が多いようですので、次に進みたいと思います。

仮採点2位 湊高台地区子ども会育成会「(仮称)湊高台こどもみこし」

■ 事務局

- ・ まちづくり支援コースの4番になります。仮採点で37.8点を獲得しています。
- ・ プラス評価としては、「子どものころから地域行事へ参加することで、地域への帰属意識が高まるものであり、新たな展開へつながる。」「一見するとイベントにすぎないが、新興住宅地、学区の複雑性ゆえの地域の課題にも掛かる事業である。」との意見がありました。
- ・ マイナス評価はほとんどありませんでしたが、「発展性において、直接新たな展開に結びつくわけではない。」という意見がありました。
- ・ 質問項目として、「団体収支予算の特別会計の中で、奨励金を上回る額の積立が継続されているが、この積立について引当目的があるのかどうか。(予備費的に引当てているのであれば、本事業に充当可能である。)」という質問がありました。事務局から補足しますと、この積立は、子ども会設立20周年記念事業用に行っているもののようです。年間3万円の積立を行っています。以上です。

■ 委員長

- ・ 続いて皆さんからご質問はございませんか。

■ 委員

- ・助成金で物を買うことについてどう考えるかということだと思いますが、物を買って今後の活動につなげるというものであれば、こういう（事業内容の）ものでもよいのではないかなと思って見ていました。まずそれを買って子どもたちのためにということであれば、全然問題ないのではないかと思います。

■ 委員

- ・この地域はいろいろと活発に活動している地域ですが、今後何を目指して行くのかなということに注意して地域を見てきたのですが、子どもたちにスポットを当てて、子どもに神輿を担がせて地域を練り歩くという、その中で、親やお年寄りたちを巻き込んで行こうというねらいも感じないわけでもないです。
- ・それから学校も入ってきますし、子ども会と学校が強いパイプでつながれていくという意味ではとても面白い取り組みが予想されるのではないかと、期待されるのではないかと思います。

■ 委員

- ・この地域は結構新しい地域で、学校の統廃合も絡んでいて、コミュニティの作り方に課題を抱えていると思うので、こういう活動をして新しい結びつきを作っていくというのはとてもよいことだと思います。

■ 委員

- ・子ども会自体が昔はたくさんあったのに、残っている地域がすごく少なくなっているのかなと。部活動が3年生から下りてきたことも影響があるのかなと。本来であれば、子ども会という組織はとても大事なのだろうと思うので、ここでまた子ども会の活動を皆さんで知ることによって、子ども会の復活というか、また昔のようにできるかどうかはわかりませんが、よい案だと思っていました。

■ 委員長

- ・子どもさんへの企画としては、神輿を活かしている活動はほかにも市内にあるのでしょうか。

■ 委員

- ・湊地区には昔ありました。湊フェスタという行事の中で、子どもの神輿があったんです。中学校にも神輿があります。

■ 委員

- ・神輿って何人くらいで担ぐのでしょうか。

■ 委員

- ・私が見た神輿は30人くらいかな。子ども神輿はそれほど大きくないので。大人の神輿は40~50人くらいで担ぎますけれども。

■ 委員

- ・周りについている人たちも結構いますよね。半被は15着なので15人くらいで担いで、あとは周りについて歩くのかなという印象で見えていたのですけれども。

■ 委員

- ・湊の子ども神輿は手作りの神輿だったんですけれどもね。

■ 委員

- ・事業収支予算書を見ますと、18万円の奨励金をもう見込んで予算を組んでおられますね。これはこの分なんではないかな。

■ 委員

- ・大人の神輿だと何百万でしょうけれどね。そのくらいでできるのであれば。

■ 委員

- ・確認したいのですが、練習をするとありますが、これは神輿を担ぐ練習なのでしょうか。それとも太鼓の練習なのでしょうか。

■ 事務局

- ・太鼓の練習だと思います。

■ 委員

- ・太鼓は大人の方が練習するのですか。

■ 事務局

- ・太鼓も子どもたちが練習します。大人の方が指導してくれるそうです。

■ 委員長

- ・太鼓部隊が練り歩くとありますからね。

■ 委員

- ・神輿を作ったら、次の年もずっとそれを担ぐということでしょうか。

■ 委員長

- ・そうでしょうね、壊れない限り。子ども神輿というのは意外とないものなのですね。全然関係ない話ですが、神輿というのは神様なのですが、子ども神輿の場合はそれほどこだわらないものなのですか。

■ 委員

- ・担いで楽しむというか。

■ 委員長

- ・今回はそういう感じなのでしょうね。個人的には神輿って何ですかと聞かれた時に、神様なんだよと答えたいのですが。単にイベントじゃないよねというところはあるんですが。夏祭りの一環でやるんですが、盆踊りにももちろんそういった意味合いがあるんですけども。神輿って何で作っているのといった場合に、イベントとは本当は違うんだよなという…。表現がないので。そういう部分についても（企画提案書に）入れてもらえると意義があるのかなと。歴史的な話になってくるのですが。これは余談ですけども。あってもなくても、子ども会がこうやって活動してくれることには賛成だと思います。
- ・では時間のこともありますので、次に行かせていただきます。

仮採点3位 是川地区振興会 「是川縄文の里ガイドブック刊行」

■ 事務局

- ・まちづくり支援コースの1番になります。こちらの事業は、昨年度に引き続き2回目の挑戦となります。仮採点で37.4点を獲得しています。
- ・プラス評価としては、「平成25年度にも是川をPRする事業を実施し、今回はガイドブックの作成ということで、発展的な事業である。」「助成金に頼った事業のように見えるが、編集等は地域の方が行うということで、自立性がある。」「成果物は広く是川の歴史をPRすることになり、地域へ貢献するものと思う。」という意見がありました。

- ・マイナス評価としては、「刊行後の利用についての検討が必要。」、「目的、規模は明確だが、ガイドブックの内容、編集体制などは資料から読み取れない。」との意見がありました。
- ・ガイドブックの内容について事務局から補足させていただくと、平成 25 年度に作成した是川縄文マップの詳しい解説、是川地区全貌の紹介、小中学校の歴史と特色、地元出身の歴史上の人物や縄文に掛かるボランティア団体等の紹介を掲載する予定のようです。
- ・質問として、「初動期支援コース③の是川音頭保存会との連携はあるのか。」、アドバイスとしては、「是川縄文館との相乗効果を期待したい。」、「奨励金不支給の場合は事業を実施しないとあるが、振興会自体が安定的な組織であると思われるので、積立方式をとってでも事業に取り組んでみてはどうか。」との意見がありました。

■ 委員長

- ・ありがとうございます。皆さんからご意見よろしくお願ひします。

■ 委員

- ・是川縄文については、市でもたくさんパンフレットを出していると思うのですが、それとはだぶらない物を作りたいのかなと。そこはどうなんだろうと。

■ 事務局

- ・現在のところ是川地区のことにに関してまとまった本のようなものがないとのこと。ですので、そういった地域の史跡や歴史をまとめたものを是非作りたいということで、前々から話し合いをされているということです。

■ 委員

- ・まとまったものはないかもしれないけれど、縄文についての地域のことについては結構発行していませんか。

■ 事務局

- ・是川の民俗という昔の習慣などについてまとめた資料はあるようですが、その他のものはないそうです。

■ 委員長

- ・私のイメージですが、パンフレットは以前審査して、一度作っていただいて、今回は 2 回目ですよ。1 回はずれて、審査のほうでちょっとということで、そしてまた再度がんばって挑戦してくれたのだなということであれしかったんですけども、恐らく、先ほど田頭さんがお話されたような、私も最初はそういう解釈でしたが、少し読んでみていくと、事業計画書 3-2 の 4 番、計画性の中に、是川縄文の里マップの詳しい解説と是川地区全貌の紹介、地元出身の歴史上の人物像や縄文に係るボランティア団体等の紹介とありますので、恐らく単純な観光とか民俗とかといった一時的に入る情報ではなくて、そのところの情報を掴んだ方が、次に誰にアクションを起こして、誰とつながっていけばよいかという、次のステップに行くためのものをまとめたいという意図だと思っていました。
- ・ガイドブックというとそこに情報があって、読めばすべて理解できるということではなくて、これを手がかりとして、次のステップへ行く手がかりのための情報をちゃんと残して置こうという意図なのかなと踏んでいて、一次情報は多分パンフレットで入ってくるのだと思うけれども、その先の情報にアクセスするために、誰にどういったらいいのかということについて、もっと深く知りたいんだけどどういう風にしたらいいのという、その辺の取り掛かりのところの

資料をちゃんと残して置こうという意図なのかなという解釈をしているのですけれども、そこはちょっと質問したいところですね。

- ・パンフレットだと、今あるパンフレットと何が違うのかと。絶対（作る）必要があるということですから、何のためにまたガイドブックを作るのかという。残したいものがイメージされているから、敢えてまた提案を上げてきたと思いますから。

■ 委員

- ・ガイドブックの使い方がいまいち見えてこないなというのがあって…。

■ 委員長

- ・そうです、同じですね。

■ 委員

- ・1000部も必要なのかと。市役所に100部あげてどうするのかと。パンフレットだったらみんなに配布ということもありますが。

■ 委員

- ・冊子になりますよね。

■ 委員

- ・縄文館に行けば、ある程度集約されているものを見ることができますが、周辺にはもっといろいろなものがあるのですよね。住居跡とかいろいろあるので、集約したものに對し、もっと広がりを作るために、そういうガイドブックで穴埋めというか、集約しきれなかったものを広める意図もあるのかなと思います。

■ 委員

- ・内容はわかるのですけれども、それを小学校や中学校なりに配布してみてもらいましょうとかそういうことならわかるんですけれども、この部数を見るとこんなに必要なのかなと思ってくるんですよね。市役所に100部、はっちに50部とありますが。

■ 委員

- ・これは貸し出すものなのですか、あげるものなのですか。

■ 委員

- ・これは聞いてみないとわからないですね。あげちゃうと1000部では足りないですし。

■ 委員

- ・その辺もどうなのかなと。

■ 委員

- ・地元の人が勉強するために使うのか、あくまでもガイド不要でもあげますというようなものなのか。そうするとその人たちだけに利害が偏るような気がします。

■ 委員

- ・どういう内容のガイドをするか。それがやっぱり明確でないと。

■ 委員

- ・縄文については観光ということでもやっているから、そこまで深く知りたい人がいるのかなという感じのところはあります。地元の人やはり自分の地域ということだけれども。

■ 委員

- ・去年市川でも似たような形で考えて、（最終的には）止めた事業がありましたけれども、その時は（配布の対象は）町内の住民、あとは小学校や公民館を考えていたんですけれども、市

役所にこんなに部数を配布する発想はなかったです。この辺の感覚がちょっと違うなどは見えていました。

■ 委員長

- ・ 実際（市役所で）100部もらってどうするかという話ですよね。観光で配るのか、まちづくりで配るのか。

■ 委員

- ・ 観光で配るのであれば、全然足りないと思いますし。どうしようとしているのか。

■ 委員長

- ・ とりあえず1000部くらいあれば何にでも使えるだろうという発想なのかもしれませんね。

■ 委員

- ・ この（ガイドブックの）使い道を浸透させるには、是川地区の人たちにきちんと配布して、知ってもらおうという…。そこまで広めなくてもいいのかなと。八戸市美術館とかまではどうなのかなと。
- ・ これを作るには、住んでいる方たちが知りたいということだから、ローカルのなものになっちゃうのかなということはありませんね。

■ 委員長

- ・ きちんと編纂しているものは縄文館にあればこと足りるのですよね。もしくははっちでもいいですけども、数部あれば。（事業）内容が、これを作って次に何をするか。観光用に配るわけではないだろうし、この部数であれば…。

■ 委員

- ・ 作ろうとする気持ちはわかるし、残したい気持ちもわかるのですが、これをどう使うかがちょっと何か考えが中途半場という気がする。この分作っておけば何とかなるのではないかと、いうくらいにしか見えない。

■ 委員

- ・ 発展性に欠けるというか。

■ 委員長

- ・ 残さなければならないというのはわかるのですが、1000部作って、市役所に100部、合同庁舎に30部。もらった方も何に使うかという趣旨が、意図がはっきりしないと倉庫に眠ってしまうだけで、少しもったいないような気がします。ちょっとその辺の質問をすることになると思います。
- ・ 最初の質問と一緒に、パンフレットと何が違うかと、目的は何のために作るのかということを確認しなければならないかなという気がします。

仮採点3位 すまもり中世の田んぼクラブ

「中世の田んぼ跡活用による島守の活性化事業」

■ 事務局

- ・ 初動期支援コースの2番になります。仮採点で37.4点を獲得しています。
- ・ 平成26年度の奨励金交付事業であり、今回2回目の応募となります。
- ・ プラス評価としては、「平成26年度からの継続事業で、参加者も増えているようであり、

継続性がある。」「広く住民が参加できる体制があり、公益性が高い。」「中世の水田跡という地域の文化をベースにしており、独創性がある。」との意見がありました。

- ・ マイナス評価としては「助成金終了後の活動費をどう工面するのか。」「奨励金支出科目に神社への初穂料が計上されている点に違和感がある。」という意見がありました。
- ・ 質問として、「昨年度の収穫はどれくらいあったのか。」、アドバイスとして、「水田の意義を知ってもらうために、ネットなど地域外へのアピールも必要ではないか。」との意見がありました。
- ・ 事務局から補足すると、ネットなど地域外へのアピールという点については、「すまもり村」というタイトルでブログを行っているとのことでした。
- ・ 初穂料についての意見がありましたが、市民奨励金で対象外経費としている飲食費や団体の運営費、団体のメンバーへの人件費以外の用途については団体に任せています。団体の事業計画は、事業経費を何に、どのようにして使うのかということを含めた上での企画提案なので、そういう点についても考慮しながら審査をしていただければよいと思います。
- ・ 神社への初穂料や玉串料については、現在では社会通念上の慣習的な意味合いが強いものであり、宗教的儀式としての意味合いは薄いと思われるため、経費として認めてもよいのではないかと考えています。以上です。

■ 委員長

- ・ それでは委員の皆さんからご意見をお願いします。

■ 委員

- ・ 活動を活発に去年から行われているのはわかりますが、意見の中にもあったとおり、例えば今年度も（審査を）通りました、（事業が）2年で終わりました、来年どうするのだろうという不安があります。来年止めました、とって流れるのも少し不安だなという気がしていました。

■ 委員長

- ・ 今後の自立した活動に向けたご意見ですね。その他にご意見は。

■ 委員

- ・ いろいろ活動をしているようですが、参加人数とかどうなのかなと。増えていると書いていくけど、実際の数字がないのでわかりません。

■ 委員

- ・ 規模的なところはどのかな。

■ 委員長

- ・ 前回の報告書的なものはあるのでしょうか。

■ 事務局

- ・ 26年度事業については実績報告書が上がってきている状況でございまして、活動成果発表会に向けて資料を整えている段階ですので、後日、こちらと（同じく26年度奨励金交付団体の）笑ってキラキラサークルについては実績報告書からそういった部分は皆様にお伝えできると思います。今現在、まだ資料が整理できていない状況です。

■ 委員長

- ・ 実際、会費収入以外でやっていこうとすると、今度は活動内容のPRということになってく

る。PRして賛同者を集めるという話になってくるのですけれども、そのための報告は今のところブログしか今のところ発信手段がないようですけれども、他のものを作る予定があるのかなということが気になっているのですけれども。もちろん若い人が中心であれば、パソコンで見てという話になってくるのですけれども。

- ・実際どんな活動をしているかといったパンフレットのものが今回は提示されていませんけれども、ちょっとその辺は整備された方が…。特に、ここにしかない地域のものであるよということであれば、ちょっと整備してもいいのかなというところはありますけれども。
- ・そういうものが今回の添付資料にないので、ないのかなという。せっかく特長のあるネタがあるのにないなど。そういうものはあるのですかね。

■ 事務局

- ・すまもりの田んぼ跡のPRということでは、朝もやの館でパネルの展示をしている状況です。

■ 委員長

- ・そういう形でやられているのですね。活動の報告という意味も含めて賛同者を増やすための作戦として何かやられてもいいのではないかと思いますので。ちょっとそこはブログが一番手間をかけずにできるということで作られているようだけれど、その辺は聞いておきたいと思います。
- ・ほかに皆さんからは何かありませんか。

■ 委員

- ・お米を販売するとあるが、それは収入にはならないのですか。

■ 委員長

- ・そうですね。これは事業的に収入になるのか、ならないのか。販売すると書いてあれば、収入になることになりませぬ。

■ 事務局

- ・26年度の事業計画書にも販売と書いてありましたが、実際は販売を行わず、収穫祭の時にのにぎりにして皆さんにお配りしたようです。今年度については聞き取りしなければわかりません。
- ・ただ、販売して収入を得たとしても、対象経費が10万円を超えた分は余剰分を繰越して団体の事業収入とすることは可能です。

■ 委員

- ・参考までに、この田んぼは私有地ですか。

■ 事務局

- ・はい。私有地で地主の方に賃借料としてお金を支払っている形です。

■ 委員長

- ・他にご意見は…。ないようですので、それでは次に行きたいと思います。

仮採点5位 笑ってキラキラサークル 「エリート高齢者育成事業」

■ 事務局

- ・初動期支援コースの1番となります。37.0点を獲得しています。
- ・平成26年度の奨励金交付事業であり、今回2回目の応募となります。

- ・ プラス評価としましては、「今までのミュージックベルの活動が、発展的に人形劇、紙芝居などの活動へ進んでおり、継続性があると思う。」、「地域イベントへ参加し、イベントを盛り上げる手伝いをするなど公益性がある。」、「自分たちのサークル活動を広げ、地域との融和を図って事業展開しており、独創性があると思う。」という意見がありました。
- ・ マイナス評価としましては、「事業費の総額がほとんど奨励金となっており、事業実施のあり方に疑問が残る。」、「地域公民館の自主クラブ活動と思われ、類似する他のクラブ活動と比べて特長が認められない。」、「団塊世代と若い世代との表面的でない関わり増加としての側面はよくわからない。」との意見がありました。以上です。

■ 委員長

- ・ それではご意見をお願いいたします。だんだんにいろいろな、プラス意見とマイナス意見が出始めていますけれども。

■ 委員

- ・ ミュージックベルって、よくクリスマスにやるハンドベルのことですか。

■ 事務局

- ・ そうです。

■ 委員長

- ・ 同じ項目でも解釈の違いでプラス評価になったり、マイナス評価になったりしている部分があります。
- ・ 採点表では、公益性について不特定多数の利益となっているのですが、団体自体は16名ですから、ここから先の公益性ということに関していうと、16名から先にいかないところがあるので、その解釈の違いになるのかな。同じ項目でも解釈で分かれてきちゃう部分もありますから。
- ・ 団体自体がプロジェクト的な場合は、こういった解釈の違いが起こりえますね。会員以外の人達に対する公益性って何？という話になってくるので。今日は意見をまとめるという趣旨ではないので、どちらの意見も出ていますねと確認する感じです。
- ・ マイナスの評価の中で、確かにこれは奨励金ですので、終わったあとの事業費をどうするか。初動期の場合は必ず質問しないといけませんね。2年やってそのあとどうされますか、という質問は必ず出てくる疑問点となりますので。
- ・ まちづくり（支援コース）もそうですが、まちづくりは継続して活動を行われてきている団体さんが基本的に応募してきているのでいいですけども、初動期の場合、次はどうされますかという部分は質問しておかなければならないので、多分これもお聞きしようかなと思っています。

■ 委員

- ・ 地域への貢献についてどういう風な捉え方をするかということだと思うのですが、一部の人の活動とするか、外に出て活動することが地域のためになるかという、そこら辺の見方だと思うのですが。

■ 委員長

- ・ 特に今日は解釈を決めませんので。あとは、会員になっていない人も実は今後の会員（になり得る）というイメージでは、今16名以外の人でもこれから会員になる可能性はあるので、そういった意味での広がりが見られるかなということで、公益性という意味では考えたりする

のですけれどね。これは私の解釈です。

■ 委員

- ・ 少子高齢化の中、高齢者の人がいきいきと（地域に）貢献したいという気持ちというサークルがあれば、これまたその地域を知ることによって、少子高齢化というとは何かあれですが、本当に子どもたちが今少なくなっていて、高齢者の人が増えている中で、ああ若い人たちがいなくて大変だ、大変だという気持ちにならないためにも、自分たちが活動できるんだという、すごく生きるのが楽しいというか、そういった感じで頑張っているなどは思っていました。

■ 委員

- ・（資料に）公民館の自主クラブで類似する他の活動、とあるのですが、他のクラブでも施設にも慰問したりというものはあるのですか。（公民館の自主クラブの）イメージとすれば、公民館に町内の人が集まって活動しているというイメージしかないのですが、こういった感じで他に出て行ってということはあるのですか。

■ 委員

- ・ ありますね。そういう機会は結構あります。

■ 委員

- ・ それは高齢者の人たちですか。

■ 委員

- ・ そうとも限らないです。

■ 委員

- ・ そうですね。この場合は（会員が）70代の方たちだということで、同じ公民館活動の中でも、年齢層というか、そのあたりの年代の方が外に出るといって…。60代の方ばかりで外に出るといって、70代の人たちが外に出ていくという場面はそんなに他の地域にあるのかなというのはありますが。

■ 委員

- ・ 中心となっている人たちがどういう目線で回りをみているかということだと思いますが、結構こういうチャンスはあるものです。

■ 委員

- ・ 施設慰問の機会がないかということをもっと積極的に模索している。何かどこかでやらせてくれないべが、といった感じです。特にこういう音楽系の団体は見えていただきたいということがあってしょうし。それとうまく人形劇とを組み合わせたいという点がいいなという感じがありますけれども。
- ・ 恐らく、このメンバーさんたちは中高年齢者なのだろうなということだと思いますけれども。

■ 委員

- ・ もっと高いと思います。すごいなあと思って。実際うちの（保育）園にも来てもらったことがあります。実際に見て、すごい、ピンクの（服を）着ているし、ああすごいなあと思って。
- ・ 紙芝居なんかも作ってきて下さって、自分も歳を取ったらこのようになりたい、なれるかはわからないけれども、そういう風な希望を持てるような団体というのかな。すごかったですね。

- ・ハンドベルでも、自分たちだけで演奏するだけでなく、園の子どもたちにも教えてくれたりして、よい経験をさせてもらいましたけれども。

■ 事務局

- ・今回この企画提案書には活動の様子資料が添付されていなかったのですが、さきほど言いました26年度の事業報告書の方には活発に活動しておられる様子の資料がありますので、後日皆さんにお渡ししたいと思います。

■ 委員長

- ・多分、年齢じゃないですね。元気が、元気でないか。また、外に出たいか、そうでないか。気持ちの問題のような気がしています。

■ 委員

- ・お元気ですよ、皆さん。

■ 委員長

- ・私も当然、中高年のうちに入るんだろうなと思って。年齢じゃないのかなと思ってしまいました。では、次に参ります。

仮採点6位 ケアカフェはちのへ「ケアカフェはちのへ事業」

■ 事務局

- ・初動期支援コースの5番となります。36.6点獲得しています。
- ・プラス評価としましては、「平成25年から定期的にカフェを開催してきており、今後も継続的に開催されると思う。」「いろいろな職業の方が集まってお互いのよさを吸収し合うことができる場だと思う。」「カフェは広く市民へ開かれており、公益性があると思う。」との意見がありました。
- ・マイナス評価としましては、「講演会開催予定回数に対し、事業・予算が相対しているか不明。」「書類だけでは活動の意義が十分読み取れないため、評価しづらい。」との意見がありました。
- ・質問としては「奨励金は1回だけの講演会に充当する予定か。」との意見がありました。

■ 委員長

- ・皆さんからご意見をお願いします。

■ 委員

- ・単純な質問なのですが、講師料の6万円ってどうなのかなと。高そうなイメージがすごくあったのですが、妥当なのですかね。希望額とは書いてありましたけれども。
- ・そうだとされればそうなのだろうけれども、ちょっと高いかなというイメージです。

■ 委員長

- ・相場があるとすればあるかも知れませんね。他にご意見はございませんか。
- ・今回は団体が新しい団体だから初動期ということですよ。事業としては10回のケアカフェ開催のための申請ですよ。

■ 事務局

- ・ケアカフェと講演会を開催するという事業計画です。講演会開催経費だけでも119,140円で初動期支援コースの奨励金10万円を越えていますので、講演会開催のための申請であるということもできると思います。

■ 委員長

- ・そうですね。できてからまだ日が浅いということで初動期としての申請なのかなと思っておりましたけれども。

■ 委員

- ・会場費で4万円、講師料で6万円と10万円近くかかっているの…。それも役員会で検討してある程度決めるということですけども。

■ 委員長

- ・会場費の5回というのはどの5回なのだろう。

■ 事務局

- ・ケアカフェを開催するための会場費となります。その他に講演会を企画しています。

■ 委員長

- ・第10回ケアカフェとあって、会場費は5回だから。第10回ケアカフェという特別なイベントをする打合せのための会場費なのか、ちょっとその辺が読み取れなくて。

■ 事務局

- ・事業計画書3-3の資料になりますが、第10回というのは継続して活動している中での10回目という意味です。4月開催予定の第10回ケアカフェのあと、6月、8月、10月、12月、2月にケアカフェを開催予定ですので、その通常の活動の5回分ということになります。

■ 委員

- ・奨励金の考え方として、例えば、物を買ってそれを今後使っていくのだという考え方だったら、何となくそうなんだなとわかる気がするが、1回(の講演会)で使ってしまうとなると、それで会員を増やすとか、会を知ってもらおうといった目的なのでしょうけれども、ちょっとどうなのかなという気がするのですよね。

■ 委員

- ・感じました。

■ 委員

- ・イベントで終わってしまうというようなイメージになってしまう。

■ 委員

- ・形に残るか残らないかといったら残らない感じで、その場だけの。継続性にはつながりそうにないかな。団体が講師を呼ぶことによって会員の人が増えるということはあると思うけれど、奨励金を講師料が占めていて、ちょっとかな。

■ 委員

- ・活動自体はよい活動をされていると思うので、例えばこの講演会の時にアンケートをとって、今後(活動を)どのようにしていくのかという流れだとまだいいのかなという気はしますが、やって終わりという風に見えてしまうところが弱い部分です。

■ 委員

- ・講演会で初めて不特定多数の市民に開いて、普段の例会はいわゆる会員だけの情報交換の場という表現になっているので、継続性というか、形に残らないという点で少し私はどうかかなという思いはあります。

■ 委員

- ・ケアカフェを何回かやっていて、団体概要書ですが、30人から40~50人集まっているようですが、これが毎回入れ替わるのか、固定メンバーできているのかというところを団体に聞いてみたいです。本当に流動的なのか、ある程度固定できているのか。

■ 事務局

- ・(参加者は)フェイスブックなどや口コミで広がっているそうです。どなたでも参加できる体制はとれているとのこと。

■ 委員

- ・テーマが毎回違うみたいなので毎回同じメンバーというわけではないと思いますが。医療機関とかそういったところにつなげていくものなのですか、事業者とか。

■ 事務局

- ・資格を持っている方たちが集まっていろいろなジャンルの方が集まることでお互い情報交換することで、自分が知り得ない他の現場の声や悩みをその場で共有し、そしてそこで共有したものを各自が現場に持ち帰るという場になっているということです。

■ 委員

- ・イメージとしてはわかるのですが、具体的にどうなのかということが想像つかなくて。もし具体的な事例があればわかりやすいのかなと思います。

■ 委員

- ・過去の収支報告書を見ましても、講演会の謝礼、交通費でほとんど占められていますね。有名な先生なのでしょうけど。30万円とか、15万円とかね。

■ 委員

- ・講師を呼ばなくても、そういったカフェを開ける状況であればまたいいのかなと思ったのですが。

■ 委員長

- ・団体の普段の活動と、収支報告書は講演会の収支報告と団体の収支決算書はあるのですが、団体の収支決算書は、ケアカフェはちのへ開催ごとに、募金と書いてありますよね。
- ・かかった費用は会場費とコーヒー、ジュース代くらいという収支になっていますよね。講演会の時は頑張ってチケットを販売したという結果が残っていて。
- ・今回のこの事業を出した目的がどこにあるのかがよくわからないわけですよ。講演会のイベントをこれでやっていきたいのか、それともケアカフェの毎回の活動の5回分を奨励金で充てたいのかがちょっとわかりづらくて。
- ・やっている活動に関しては、皆さん意見はないのですが、奨励金の支出にあたって、その解釈がしづらいという意見が書いてありますが、そこは私も何のために今(奨励金を)応募する必要があるのかなというところがあります。今すでに募金で成り立っているよね、というところがあります。しかもチケットも売って頑張ってきているから、今回なぜこれを申請してきて、何をしますかというところですね。
- ・例えば今回の事業計画の中にありますけれど、5回ケアカフェをやるのに、何もないヨチヨチの状態、募金として成り立ちにくいから(というわけでもなく)…。さっき(までの団体)は今後奨励金がなくなったらどうやって活動していきますかということだったけれど、何で今回奨励金を申請しますかという逆のパターンですね。ちょっとそこが読んでいて思う

のですよ。これ、もうすでに動いているじゃないという。さっき田頭さんが言ったように、普通にやれているのですよ、結果的に。なので、なぜ今回応募してきたかということが伝わらないと。やっている内容は素晴らしいと思うのだけれど、ちょっとそこが。質問するとすると、ここかなと思いますけれども。

- ・しかも、チケットも売っていますしね。当日販売も合わせると150枚位はチケットを売っていますからね。チケット収入があるのですよ。頑張っただけで既に自立しているような感じがあって。そこは皆さんどう考えるかという気がします。
- ・他に皆さんご意見はありますか。では時間の関係もありますので、次に進めていきます。

仮採点6位 是川音頭保存会 「『是川音頭』で是川を元気に！」

■ 事務局

- ・初動期支援コースの3番になります。仮採点で36.6点獲得しています。
- ・プラス評価としましては、「これまでの活動から、是川音頭保存に対する意欲を感じる。」、「『是川音頭』という地域の文化を復活・普及させようという意気込みを感じる。」、「普及のためにDVDを作るだけでなく、小・中学校や社会福祉施設へも普及させることを予定しており、独創性がある。」との意見がありました。
- ・マイナス評価としましては、「事業実施のほとんどを奨励金で占めていることに会の熱意が感じられない。」、「地域全体に影響を及ぼし得るとはいえ、特定の世代に活動が限定されていないか。」、「もう少し広がりのある事業があってもよいのではないか。」という意見がありました。
- ・アドバイスとしましては、「地域の貴重な財産を復活させ、子どもから大人まで親しめるようにしてほしい。」との意見がありました。

■ 委員長

- ・ありがとうございました。それでは皆さんからご意見、ご質問をお願いします。

■ 委員

- ・団体は違いますが、特定の地域に助成が偏るといのはそれほど問題にならないのでしょうか。活動はいいと思いますが、そこが少し引っかかりました。

■ 委員長

- ・そうですね。今までは特に問題にしたことはなかったですね。

■ 委員

- ・特定の地域だけで収まるというのではなく、「元気な八戸づくり」ということですから、その地域でもやって、八戸全体に対して普及できるような活動のほうがいいのかなと思います。

■ 委員

- ・私の地域でも同じような音頭の保存してやったんですけども、奨励金の対象にしようとも思いませんでした。自費でやりました。

■ 委員

- ・地域に（それぞれ）ありますよね、古くから。地域内で楽しんでいるという感じです。

■ 委員

- ・学校にも働きかけて、小学校、中学校でも踊っていただいて、授業の中でも取り上げていただいているということでは、一定の普及というか保存は進んでいるのですけれど、この事業収支予算書を見ると、ほとんどがビデオ作成費ですよ。結構するものですね。

■ 委員長

- ・プロにやっていただくということなのかな。

■ 委員

- ・ビデオに撮らなくても、きちんと伝承する人がいれば…。うちの地域にもありますけれども、そういうDVDではなくて、人が人によって普及しているという感じですけどもね。

■ 委員

- ・正調な、正しい物を残して行きたいという意図からやはりこういう形にしたのだと思いますけれども。やはりだんだん、だんだん踊りが崩れていくというか、変形するのですよね、長い間には。ちゃんとしたマスターを作っておくということでこのように考えられたのだと思いますけれども。

■ 委員

- ・ちゃんとした音源があるというのはとても大事なことです。よくいろいろな講習会などで、ダビングして、ダビングして使い回しているCDやテープなんかを使って講習会なんかをやっておりますけれども、いや、大丈夫ですかというような雑音が入ったり、元はないのですかと聞くとダビングしてもらったものだということだったり、どうなっているかわからないですよ。ちゃんとしたもので聞きながら練習するということはとても大事なことだと思っています。
- ・その中で、地域に合ったつくりをするということはとても面白いことだと思いますが、ちゃんとした音源があるということは大事だと思う。

■ 委員

- ・元のものはないのでしょうかね。

■ 事務局

- ・火事で全部消滅してしまったのだそうです。団体概要書のこれまでの活動経緯のところにもありますが、昭和49年の是川小学校火災により、是川音頭のテープ及び歌詞、楽譜などがすべて焼失し、地域からこの是川音頭が消えてしまったそうです。
- ・そのことをこの団体の代表である大沢さんという方が新聞に投稿したところ、その記事を見た作詞家のご家族の方が1枚だけ残っていた楽譜をこの大沢さんに提供していただき、それをきっかけにこの大沢さんが復活させて今こういった形で活動するところまで来たということだそうです。
- ・こういった経緯もあって、きちんとした形で後世に伝え残したいと思いがあって、今回応募されたということでお話は伺っていました。

■ 委員

- ・是川地区には連合会組織が二つあって、旧是川と団地を主にした連合会組織がありますが、そちらの方とはどういう関係があるかわかりませんが、恐らくメンバーが重なっておられると思うので、連合会の補助をいただくということもあったのではないかと思います。若干地域限定という部分が強いなという印象はありますね。

■ 委員長

- ・すでに活動はされています。活動はすでに3年やられていて、きっと成り立っているという状況で、DVDをきちんと作って残しておかないと、また万が一の時のためにということもあるのですが、多分、これはダビングされますよね。3部しか作らないのですから。結果的に小学校に広めるとしたらダビングされていくなと思うので。
- ・元々のものは残しておきたいということで、プロの手を使ってきちんと音と映像がきれいなものを残したいということで8万円なのですよね。プロを使うと8万円ということで、素人だとそれほどかからないという話になります。
- ・なので、話はずれるかもしれませんが、例えば地域でパソコンとビデオを持っていて得意な人がいれば、できちゃうのですよね、残すことだけは。プロを使うことで何が違うのかなといえ、音が素晴らしくよく撮れているとか、画が素晴らしくよく残っているとか、そういうことであれば意味があるんですけれども、全部このプロの方にきちんとやっていただけるということで期待した上で価格が8万円ということで、すべて奨励金の額ということになるのですが。
- ・正しいものを残すこと自体は何で撮っても撮れちゃうわけで。音をちゃんととるとか、その辺の意味で期待されているのですよ。できれば本当は、地域で若い人じゃないですけども、パソコンとかできる人に、ちょっとやってくれないかなと頼むこともできるでしょうけれども、プロじゃないからどこまで仕上げられるかということもいろいろあるのですけれども。そういうことも策としては。協力してくれないということもあるでしょうけれども、そういうことも町内の活動なのかなという気もしていて、●●委員の意見の通りなのですよね。協力してとか、お金をかけないでやる方法もあるんじゃないかなということで。プロがやれば、ちゃんとした音で、ちゃんとしたものができるということでお金をかけちゃっているのですけれども、そういうものかなという気がしないでもないです。

■ 委員

- ・そんなに画質にこだわらなくても、伝承されていくのかなって。八幡馬にしても、別にビデオを見なくても踊れているわけだという感じがすると、そこまでしなくてもという感じですけど。

■ 委員長

- ・そこは、きれいなものを残したいということなのだろうなということで。8万円もの予算をかけるということだから、そういうところにもこだわるのかなとかありますけれども。

■ 委員

- ・確かに、そこまでしなくてもという感じはある。

■ 委員長

- ・残せるのですよ。今、ビデオもよくなっていますから。音の問題はちょっとありますけどね。ただ、音をきれいに残したいといっても、皆さん歌う時は全然別の話ですからね。そういうものも昔は当然なかったわけですから。ちょっとそこはプロの方だけに期待されている感じがあって、そこはちょっと誤解される提案書になっちゃうかもというところがあります。

■ 委員

- ・27年度の収支予算案を見ますと、会費収入のほかに謝礼金という形で、地域の2団体から出ていますね。これは補助金の類ではなくて謝礼ということであれば、踊って披露したものに

対しての謝礼なのでしょうね。地域の行事に出て行って披露したものに対する謝礼なのでしょうね。そういう点を見ますと、もう少し地域からの援助があってもよいのではないかという気がします。是川は大きな組織ですからね。立ち入った話ですけど、応援もいただけるのではないかという気がします。

- ・前のページで 26 年度収支決算書の見込みがありますが、連合会の会長さんから個人の立場で謝礼があります。

■ 委員

- ・連合会に属しているわけではないので、もらいづらいということもあるかも知れません。別組織なので、援助をくれというのも何だか言いづらい。だから踊りにいって謝礼金をもらうという形を取っているかもしれません。

■ 委員

- ・そういう意味では、一つの団体となっているのであれば、もう少し地域として応援してあげてもいいのではという気がしますね。

■ 委員長

- ・プロに撮ってもらうことだけを考えているようですので。携帯でも撮れちゃいますからね、画だけはね。

■ 委員

- ・3年続いてきたということなので、明確にバックアップ体制がみえてきてもいいのではないかと思いますけれどもね。

■ 委員長

- ・そこは、奨励金を使わないと残せないですかね、ということになっちゃうかなという気もしますが。ヒアリングの時に出る質問になるかも知れませんが。
- ・連合町内会との関係について、これは聞いてもいい質問なのでしょうか。表立った質問にしない方がよいのでしょうか。そういう意見が出ていたということだけは伝えてもよいかもしれません。答えるかどうかはまた違うかも知れませんが。
- ・それでは時間の関係もありますので、ここで切らせていただきます。

仮採点 8 位 八戸地域社会研究会

「八戸三社大祭の経済波及効果の実態調査から見た地域振興の課題研究」

■ 事務局

- ・まちづくり支援コース 5 番となります。仮採点で 34.3 点獲得しています。
- ・プラス評価としましては、「三社大祭の経済的波及効果の実態把握はさらなる課題解決のために是非必要である。」、「調査研究結果は地域へ還元され、地域貢献できると思う。」、「調査研究は団体の専門分野であり、新たなテーマへの研究であり、先駆的なものである。」との意見がありました。
- ・マイナス評価としましては、「団体のこれまでの調査活動からの発展性が十分読み取れない。」、「研究成果の公開に工夫が必要ではないか。」、「調査自体は興味深いですが、調査項目の詳細がわからないと、調査が有効なのか、十分に判断できない。」との意見がありました。

- ・質問としましては、「入込客の過大評価が修正されるとどのような提言ができるのか。(予想される結果、及び結果のインパクトは?)」、「誰に、どの程度のアンケートを実施するのか。との意見がありました。

■ 委員長

- ・はい。こちらの事業について、ご意見ご質問等ございますでしょうか。

■ 委員

- ・内容がいまいち理解できないのですけれども。どういうことなのかわかりにくかったです。

■ 委員長

- ・実際のアンケートはどんな質問になるかなということですが、これから決めていくということですかね。

■ 事務局

- ・そうですね。

■ 委員長

- ・経済効果の実態調査ということですが、どういうアンケートをとれば(実態が)とれるのかなという、想像がつかない世界なのですが。そこが想像つかなくて…。

■ 委員

- ・アンケートの対象者は事業者ですか、一般の観光客ですか。

■ 事務局

- ・一般の観光客と三社大祭に関わる事業者ということです。

■ 委員

- ・お祭りの関係者。

■ 委員

- ・商店などですか？

■ 事務局

- ・踏み込んだところはちょっとわかりません。

■ 委員長

- ・そこは大事ですね。アンケート対象者は大事です。

■ 事務局

- ・三社大祭に関わる事業者の中身がどういう人たちかということですね。

■ 委員

- ・事業者へのヒアリングはもうすでにしているんですよね。把握はしているので、そちらがメインということではなくて。

■ 事務局

- ・入込客の生の声も入れないと実態が把握できないということだと思います。

■ 委員

- ・生の声を率直に聞いて、過大評価を修正することはできるものなのかということがちょっとわからなかったです。

■ 委員

- ・入込客というのは、いわゆるお祭りを見ている人ですかね。

■ 委員

- ・お客さんを選ぶのも恣意的に選ぶのは難しいですよ。世代を選んでやるのか。それによつてすごく偏りますよね。見かけでこの人は40代とか…（判断するのか。）場所によっても違いますし。時間とか。

■ 委員

- ・実態把握といっても、どのくらいの階層かということでも全然違って来るので、そこら辺がよく見えないです。でも、私は実態把握への切り口というところで興味を持ちましたけれど。

■ 事務局

- ・事業計画書3の1の事業目的の欄に、八戸三社大祭の経済波及効果と将来の振興の課題に関して、平成26年度に中間報告のとりまとめを行ったとありますが、この下地となっている調査報告があるということなので、それについて委員の皆さんの検討資料としてどういった資料かを見せていただけますかと団体にお尋ねしたところ、提出できないということでした
- ・必要であれば概要を示したものは提出できるとのことでしたので、委員さんから質問があった時には提出をお願いしますとお話はしてあります。

■ 委員長

- ・一番最初の●●委員の意見ですが、どういう質問をするのかわからないので評価もできないということですよ。対象者がわからないから果たして有効かどうかもわからないという部分があって。ぼんやりしている中で採点している状態なので。そこがわかると、いいねということで点数が上がるかもしれないし、ちょっと違うかなということで具体的な意見が出てくるかも知れないですけども。ちょっとそこまではいかないですね。

■ 委員

- ・前回の調査がまとまっていないということなのでしょう。

■ 事務局

- ・ある程度はまとまっているようなことでしたが。

■ 委員

- ・どこかにそれを提言して、どういう声を聞いたとかいうことはあるのですか。どこに対してアピールした調査だったのかとか。

■ 事務局

- ・そこについても確認したいと思います。

■ 委員長

- ・この団体は、これまで実際に地域活動を大変たくさんされていますし、企画的なものもやられていますし、アンケートも取られているのですけれども、今回はなぜこのことをしなくてはならないのかということがちょっとわからないですよ。つまり、何のために調査しなければならないのかという動機的なところですよ。見えてこないものがあるから奨励金を使ってもうちょっと伝えたいというところがあるのか。目的自体が、このためにこれ（アンケート）が必要だということが出てくると、ちょっと（アンケートが）必要かもしれないということになるかもしれないけど、まだちょっとそこまで…。
- ・たくさんこれまで活動している中で、また敢えて三社大祭についての調査をなぜやられるのでしょうかというところが、想いの部分になってくるのかも知れないですけどもね。そこがちょっと見えていないのかなという気がしますけどもね。

- ・これまでアンケートを取られているじゃないですか。僕もまちづくりの活動はいろいろな中でやってきているのですが、まちづくりにアンケートはだめだと言われているんですよ、実は。否定派と両方あるんですよ。
- ・今回学生さんにアンケートを取ってもらうということで、しかもソフトを使ってということなので、あらかじめ何らかの意図を持った質問をされていて、それを集計していかれると思うんですけども、そこで三社大祭の経済状況の把握はできると思うんですけど、実際そこでどんな企画を作っていくか、どんな打ち手を打って観光振興につなげるかというところまで、アンケートから作っていけるかということを考えると、ちょっとアンケートという手法で果たしていいのかという根本的な話ができちゃうのですよね、議論の中で。
- ・なので、対象者も未確定というかよくわかっていない中で行くと…。しかもアンケートを取るのには学生なのですよ。どこまで質問を突っ込んで行けるかというところが…。
- ・本当をいうと、この観光客はなぜここに今いるんだというところまで読みきらないとならないというのが、今回のアンケートだと思うのですよ。なぜこの人がここに来ているのかというところで、人それぞれのストーリーを見取らないと。恐らく観光ということになるとそういうことかなと僕は思っているのですけれども。
- ・わざわざ観光地ではない、弘前と比べるとですが、八戸に来てわざわざ泊まる理由は何だというところは、その人なりのストーリーやきっかけがあると思うのですけれども。そこまで聞き取らないとアンケートとしては弱いのかなという気がしています。僕はそういう解釈をしているのですけれども。

■ 委員

- ・80円の謝礼で、何分アンケートができるんですかね。どのくらいの枚数とか、質問項目とか。

■ 委員

- ・どの程度のアンケートになるのかがわからないのですけど。

■ 委員

- ・ぺらぺらした一枚だったら何も結果が出て来ないですし。

■ 委員

- ・集計プログラムのソフトを作ろうとしているので、結構なことをしようとしているが、4枚じゃ大したものを作れないだろうし、その辺はちょっとよくわかりませんよね。

■ 委員

- ・お祭りの時だと皆さん嫌がりますよね。

■ 委員

- ・集計プログラムまで作って…。

■ 委員長

- ・アンケートで出ていた最大公約数の打ち手を打っても、それが果たして観光振興につながるかどうか、それは誰もわからないと思っておりまして。例えば今この中に実際にこれまでこの団体がされていた活動を見ると、こういう活動もこの団体がやっているのかというものもあるのですよね。ただ、今回三社大祭でアンケートからそれができるかというところ、ちょっとわからないので。そういう意味では、なぜアンケートをされていくのかというところはちょっと聞きたいところですね。

- ・アンケートって答えのように見えるかもしれませんが、答えにならないことも結構あるような気がするものですから。私はそういう考え方を持っていて街づくりの活動をやってきたものですから、逆にアンケートで何が読み取れるのでしょうかというところを質問しちゃうかも知れないです。
- ・アンケートという手法について私の意見を述べさせていただきましたけれども。あとは、予算的なものを含めてその辺の話もしたいと思っていました。報告会もやるのですか。

■ 委員

- ・参加者 20 名とありますけれど、もう少し 40~50 名というイメージを持っていたのですけれども。内々でやるものなののでしょうか、それとも公開にするのですか。

■ 事務局

- ・公開でやるそうです。

■ 委員

- ・ここにも書いたのですけれども、報告書はどういうところに提出するのですかね。持って行って配るのですか。それともアンケートに協力してくれたお祭りの関係者に配るのでしょうか。

■ 委員長

- ・質問事項ですね。具体的なアンケートの形が見えていないので、この場では議論が進まないかも知れないですね。他にご意見を出していただきたいと思いますが。
- ・事業計画書からの確認ですが、消費支出の推算はあくまでも仮定を伴うものだった、今回は入込客の動態を確認して消費支出自体の裏付けを取りたいということですね。つまり、今まで活動してきた消費というか、どういう風にお金を使ったかについては仮定としてアクションしてきたけれども、実際はどうなのだろうというところのアンケートでしょうね。どういう風にお金を落としたりか、使ったかというアンケートを取りたいということなのでしょうね、これだけを見ると。恐らく三社大祭の期間にお金を使っているだろうという想定をしてみたけれども、実際はどうかというところを確認したいということであれば、方向はわかりますね。仮説はどういう仮説を立てたかというのはあるのでしょうかね、ここは。仮説を検証したいということなので。

■ 事務局

- ・中間報告の段階のものはあるということです。

■ 委員長

- ・それはお話を是非聞きたいですね。どんな仮説を立てられたのですかという。
- ・もう一つ言わせていただくと、仮説を立てられた時にどういう形で検証するかという事業計画自体は、この仮説をとるときにそこまでイメージされていたのか。奨励金を使ってアンケートを取ろうという話は最初はなかったと思うのですよね。結構な額じゃないですか、アンケートを取るにあたっては。仮説をとってアクションを起こして、やはり事業検証というか実際に裏付けが必要だろうということに至って、今回奨励金を活用してやろうということになったのか。
- ・つまり仮説をたてて、それを実証しなければならないわけですよ。実証というか、反証というか。反証することは、当初の団体さんの中でイメージされていたかどうかですね。反証を

とるのに、やはりアンケートが必要だということで団体さんの中で話があって、奨励金を使おうということで今回応募したということであれば、ストーリーができるのですよね。

- ・これが、アクションが何もない中で最初から仮説を立てて、実際にアクションをこれから起こしたいのだけれども、実際の計画の中で仮説の中で進むというのならわかるのですけれども、既に一度、仮説を立てる段階まではやっているのですよね。アクションを起こされているわけですよ。そして今度は結果だけ反証したいというところできているので、それはもともとなかったのかなという疑問が出ています。ちょっとそこは質問したいと思います。
- ・他に皆さんからありませんか。だいぶここで時間を使ってしまいましたので、次に行かせてもらいます。

仮採点 9 位 まちなか観光応援隊

「ラジオ体操広場開催による中心街来街者への健康啓発事業」

■ 事務局

- ・初動期支援コースの 6 番になります。仮採点で 34.2 点を獲得しています。
- ・プラス評価としましては、「ラジオ体操を通じたまちづくりであり、事業経費などそれほど掛からないので、継続的に実施できると思う。」「街中に来た人、全てが対象であり、公益性があると思う。」「健康の啓発を目的に掲げており、ラジオ体操は目的達成に有効な事業と思う。」との意見がありました。
- ・マイナス評価としましては、「お年寄り限定ではなく、年代層を広げてもよいのではないか。」「本事業の具体的な活動をイメージできないため、評価しづらい。」との意見がありました。
- ・質問としましては、「はっちの保健室との違いや連携はあるのか。」「11 月～3 月まで活動が休止するようだが、その間何か打つ手はないか。」との意見がありました。
- ・はっちの保健室について補足すると、毎週木曜日に開催している「まちの保健室」というもので、各都道府県の看護協会が主催しています。青森県看護協会に所属する看護師や助産師が協力員として無料で市民の血圧測定や健康相談を受け付けているようです。主催は違いますが、似たようなイメージだと思います。
- ・会員の中に元看護師がいるため、その人が健康相談を担当するそうです。それ以外の方にお問い合わせの場合は謝礼を支払う形にするとのことでした。
- ・まちの駅に畳の部屋があるので、体操終了後は、お茶でも飲んで休んでいって下さいとあって相談したり、話し相手になったりするとのことでした。
- ・以前、まちの駅 15 周年イベントの際に単発で一度実施したことがあるが、なかなか好評だったため、継続して実施してみたいと考えたそうです。
- ・音源は、十日市秀悦さんのラジオ体操の南部弁バージョンというものがあるので、そちらを使用する予定だそうです。

■ 委員長

- ・それではご意見をお願いします。

■ 委員

- ・個人的なことですが、健康については関心も興味もありますが、街に出かけた時にラジオ体操をやりたいと私はあまり思わないです。これは息の長い活動にしない

と。めげないでやっていけば成果も出てくるのでしょうけれども。健康啓発事業として長い目でみななければならないでしょうね。

■ 委員長

- ・現状で既にまちの駅に来場があって、新たに何か立ち上げたいということであれば、わざわざラジオ体操をやるかという意見もあるのですけれども。新たな企画であればそのために備品とか揃えたいということであれば、意味はわかります。
- ・謝礼は健康相談員の交通費、謝礼とありますが、これをお支払いするのは…。

■ 事務局

- ・これは健康相談員に支払うものです。会員の中に元看護師さんがいるということですが、その方には謝礼の支払いができないので、その方の都合が悪い場合、代わりの方に来ていただく場合に代わりの方に支払われるということです。

■ 委員

- ・年中めげないでやっているという点では、長者山ですかね。年中やっていますからね。

■ 委員

- ・街中にいる高齢者の方たちは元気な方が多いと思うので、どうせやるのであれば、ラジオ体操ではなくて、今風のもののほうが楽しめるのかなと思っていました。朝のテレビでもラジオ体操はできるし、元気な方が多いからアップテンポのもののほうが受けるのかも知れないと思っています。

■ 委員

- ・(まちの駅) 15周年の時にラジオ体操をしたということですか。

■ 事務局

- ・写真の資料もあるのですが、まちの駅の15周年記念の時に単発でやられたことがあるということ、こういうイメージで開催したいということです。

■ 委員

- ・特にやりたいという声があったのですかね。

■ 事務局

- ・なかなか好評だったということです。今回は街中ににぎわいを作りたいということで、これを継続してやったらいいんじゃないかなということでした。

■ 委員長

- ・ラジオ体操といってもイベント的なものですね。

■ 委員

- ・時間は長いのですよね。ホームページをみたら、10時から15時までとあって、(まちの駅15周年イベント) その中の一環としてやったのだと思いますが。この事業自体は20分とか30分程度の時間ですよね。その後、お茶を飲むと。

■ 委員長

- ・ヒアリングの時に、これまでのラジオ体操の実際に活動された内容だとか、どういった反響があったかとか聞いていただくと、よりイメージしやすいと思います。素朴な疑問で、街中にラジオ体操をしに来るのかというと、止まっちゃうかなと…。私も同じでしたから。ある程度イメージできると、またちょっと次の本審査の時に変わってくるかと思っています。

■ 委員

- ・まちの駅の足りないところは何かを聞ければ…。これをやることによって、新しい層が獲得できるのかとか、新しい何かができるのかとか。

■ 委員長

- ・はい。他はありませんか。ではあと3つほどありますので次にさせていただきます。

仮採点 10 位 「南部の人」プロジェクト実行委員会 「南部地方のヒト・モノ・コト」情報発信事業

■ 事務局

- ・初動期支援コースの4番になります。仮採点では33.6点を獲得しています。
- ・プラス評価としましては、「WEBサイトを通じた事業展開であるが、スタッフに専門家が多いので継続的な活動へつながると思う。」「会員の持つ技術を地域へ還元しようとする意気込みが感じられる。」「ワークショップなどのイベントも開催するなど、有効な事業と思う。」「ものづくりに関わる若い世代ならではの、独自のアイデアである。」との意見がありました。
- ・マイナス評価としては、「興味を持つ人が少ないように感じる。」「どれだけ情報発信できるのか、評価しづらい。(メンバー個々人の情報発信の状況などがあると評価しやすい。)」との意見がありました。
- ・質問として、「奨励金以外の財源について具体的にどこから捻出するのか。」との意見がありました。以上です。

■ 委員長

- ・何かありますでしょうか。

■ 委員

- ・はっちとか結構情報を発信していますよね。たまたま今日ホームページを見ていたんですけども、金入さんの、情報発信の場というよりは販売も兼ねていますが、青森のものづくりについてのホームページがあったりするのですけれども、そういったものとの違いというか新しさが特にないかなという感じがしました。

■ 委員長

- ・違いですね、

■ 委員

- ・あと、一步間違えると営利的なものになり兼ねないというか、商売が絡んでくるので、そこら辺の兼ね合いが難しいのかなと思いました。

■ 委員長

- ・ネットショップ稼働目標と書いてありますので、恐らくネットショップを開きますね。開くことが事業内容の中に元々入っていますので、それをどう解釈されるのか。ネットショップを開いたあとは予算計上としてはちょっと考えなければいけない部分があるのですけれども、特に初動期なので、実際に自立的な運営をしていくのにネットショップなどしていかなければならないので、そういう意味ではストーリー性は間違っていないくて、あとは適切かどうかということ判断することになるのですが。

- ・他のサイトとの違いは僕もちょっとすぐ思いました。何を発信したいのかなというところがちょっと見えづらくてですね。実はサイトは見ていないんですけども、別の事業の東北スタンダードというものをされているらしいということで、より地域密着型の事業をするらしいということで、具体的にはどういうことになるのかなということを質問することになるのかなと思います。
- ・ワークショップ情報の発信ということについては、ワークショップに来ていただくための情報発信をするということなのか。

■ 事務局

- ・ワークショップに来て欲しいというよりは、ワークショップをすることで、いろいろな作家さんがいるということを紹介する機会として開催したいと考えているとのことでした。WEBだけだと伝わりにくいので、生の作家さんと接していただくことによって、より多くの方に知ってもらいたいということでした。

■ 委員

- ・サイトを見てみたのですが、すごく中途半端というか。去年の3月から全然更新されていないし、やる気があるのかなと思ってしまったのですよね。もう少し更新されていれば、応援したいなという気持ちもあったのですが。手が付けられていないような感じだったので。
- ・こういった事業に奨励金が合うのかどうかということもわかりません。

■ 委員

- ・どれくらいの作り手さんを巻き込めるかということもあると思います。

■ 委員

- ・南部の人という固定概念というか、津軽の人と比べてどうのこうのと書いているけれども、そうでない人もいるし、あまりなじめないなとか。(事業計画書の)5番のところにも、「自己主張がちょっと苦手な、無口な『南部の人』たちが、実はこんなに面白い活動をしている」という、自分たちのイメージアップというところではいいけれど、南部の人はこうだという位置づけが偏っているのかなということは思いました。

■ 委員長

- ・情報発信の基盤が整っていないのですかね、南部は。そこがどうなのでしょうね。情報発信の情報とは何だろうということになりますね。来てもらうための情報なのか、参加してもらうための情報か、買ってもらうための情報なのか。別に買ってもらうでも構わないわけですけども、買ってもらうにしても情報が整えられていないというイメージを持ってらっしゃるのか。
- ・田頭さんの意見ではないですが、イメージだけで事業計画を立てていて、具体的な疑問点とか問題点とか、自分が思っていることではなくて、実際こういうことがあったとか、具体的なところで出てくるとより意図が理解しやすいのかなと思います。実際情報基盤が整っていないといわれると、何を持って解釈されているのかなという気がします。
- ・先ほどの田頭さんのおっしゃるとおり、南部の人はちょっとというと、何を持ってそれを言っているのかという…。具体的な経験でもよいですけども、そういったところがヒアリング審査の時に出てくると、より私たちとすればこの事業をする意味、意図というか、目的が伝わってくる感じなのかなというところですね。

- ・今のままでいくと、いや、私はそう思わないけどという反論が出てきてしまって終わってしまう事業計画ですね。南部の人はそうじゃないけどという話になって、そこで止まってしまいう解釈になってしまいますので、ちょっと勿体無い気がしますね。
- ・実際の作業が進んでいないということで、私も見てあれと思ったのですけれども。なかなかこれは毎月発信とか、更新とか書いてあるけれども、できるのかなと思ったのですが。その辺になっちゃうと思いますね。
- ・このくらい質問があればよいかと思います。時間の都合があるので、次へ進みます。

仮採点 11 位 八戸小久保パークゴルフ愛好会

「健康・生きがいパークゴルフ大会、初心者教室、初心者大会」

■ 事務局

- ・初動期支援コースの7番になります。仮採点で31.4点獲得しています。
- ・プラス評価としましては、「パークゴルフのルール、マナーの普及を目的に掲げており、スポーツの健全な発展に取り組むという自発性が感じられる。」「広く一般へ開放されており、公益性があると思う。」「新しく始めたい方への指導や競争心をあおる競技会の開催など、目的を達成する事業だと思う。」という意見がありました。
- ・マイナス評価としましては、「パークゴルフと地域貢献の相関関係が理解できない。」「パークゴルフだけでは趣味で集まる方に偏ってしまうように思う。」「活発な活動をされているが、奨励金を利用する内容なのか疑問。」との意見がありました。
- ・質問としましては、「これまでにルールやマナーを学ぶ教室を企画しなかったのか。」「初心者教室などにメンバーが（講師以外として）参加するということはないか。」「パークゴルフ業者の利益になるという可能性はないか。」との意見がありました。

■ 委員長

- ・それでは委員の皆さんからご意見をお願いします。点数的にちょっと厳しい点数がついているということもありますが、是非ヒアリングの時にそれを補うようなご視点も提供していただけるといいかなと思います。
- ・なかなかパークゴルフとかの企画がきた時に点数があまり上がらないということが正直ありまして、やはりこちらの中にもありますが、地域貢献とか、町内会活性化とかさまざまな目的にパークゴルフという手法を使ってという時に、やはりかなり強いつながりがみえていないとなかなか点数が上がらないという傾向にありまして、恐らく皆さん方も（企画提案書を見られた時に、またパークゴルフかというところから見てしまうと思うのですよ。ですから、その辺を補足して、点が今31点ですが、その辺を意見として差し上げてヒアリングに参加していただく方法はないかなと思っていたのですが。
- ・その辺の事業目的がはっきりしていない点がありますので、会の発展がどのように進むのかというところをもう少し掘り下げたアピールを聞きたいと思っています。

■ 委員

- ・この団体は地域貢献についてどのように考えているのか聞いてみたいのですけれども。これまでこのように貢献してきましたとアピールできるのであればアピールしていただきたいと思います。

■ 委員長

- ・パークゴルフってどれくらい（の人）がやってらっしゃるのでしょうかね。それこそ高齢者というくくりでいくと。

■ 委員

- ・各町内にはほとんどあると思います。数十人は。

■ 委員

- ・パークゴルフってやります？グラウンドゴルフではないですか。パークゴルフはあまり聞いたことがないですけども。

■ 委員長

- ・まあ、どちらでも。

■ 委員

- ・グラウンドゴルフだったら結構います。町内でもそういう活動をしているので、他とどう違うのかというように見てしまいます。どこの町内にもあるので。

■ 委員

- ・事務所の所在地はパークゴルフ場の所在地じゃないですか。事業者の所在地ですね。

■ 事務局

- ・グラウンドゴルフはどこでも道具があればできるのですが、パークゴルフはゴルフ場でなければできません。八戸市内には小久保パークゴルフ場と美保野パークゴルフ場の2か所あります。会場費が計上されていますが、そこでなければできないという点がございます。

■ 委員

- ・団体の概要書、設立目的には地域うんぬんという文言はないのですが、事業計画書、事業の目的に初めて地域についての文言があります。どうなのでしょうね。

■ 委員

- ・結構な予算規模ですよ。大きな事業が運営されているような気がするんですよ。このような中で、学びというか、仲間づくりを含めて行われているような気がするんですけどね。

■ 委員長

- ・先ほど、地域では普通にやられているというお話がありましたが、活動が地域づくりの中の一環としてほぼ定着していますということであれば、会の中の主旨に書いていなくても、地域貢献との関連性どうなのですかという最初の質問とつながるんですけどもね。その辺は聞いてみないといけませんね。
- ・パークゴルフ愛好会の中だけで終わってしまうのではなくて、そういった地域貢献とのつながりも十分ありますというところが十分説明されると、奨励金の対象としての事業となり得るかという、一番最初のステップのところをつまずいてしまうので。
- ・パークゴルフ愛好会だけであれば、わざわざそこに奨励金を出す意味がどこにあるのかということになってしまいますので。その質問がまずクリアされてから次の質問なのかなという気がします、この場合は。

■ 委員

- ・グラウンドゴルフはどこでもできるけれども、パークゴルフは専用の場所でしかできない。そういったスポーツ的なイベントと考えると、例えば話が違ってもいいけれど、ポーリ

ングの初心者教室とどう違うのかという話になってくるので、それに奨励金を出すのかという話になってきます。そうなると思うんじゃないのかなという気がします。

■ 委員長

- ・実績として地域貢献というところがなければ点数が上がらない可能性はあります。今回試みということでいくしかないですね、もしそういう風になるのであれば。企画書の中でも実際の活動の中に盛り込まれていかないと単にマナー教室をやるだけ、プレーの練習をするだけですかになってしまうので、それと地域貢献がつながるかということがないと、点数的にはつながりにくいかも知れないです。一番根本的な質問をしなくてはならないので、質問としてはこれでいいかなと思っておりました。
- ・では、最後にいかせていただきます。

仮採点 12 位 類家五丁目町内会 「町内サマージャズフェスティバル」

■ 事務局

- ・まちづくり支援コースの2番となります。仮採点の獲得点数は29.4点となります。
- ・プラス評価の意見としましては、「イベントを通じて、地域住民の連帯意識を高め、町内会の更なる発展につながると思う。」「イベントの内容からすれば助成金頼りではあるが、町内会活性化の起爆剤となるのではないか。」「町内会以外の参加者も見込まれ、地域全体へ貢献できるのではないか。」との意見がありました。
- ・マイナスの意見としましては、「夏季のイベント型であることで一過性に終わることを懸念する。」「ジャズ、音楽イベントに特化しているのは面白いが、なぜ町内会と結びつくのか、説明が不十分である。」との意見がありました。
- ・質問としましては、「椅子25脚は誰のためなのか。(演奏者用か?)」、これは、お客さん用とのことでした。「若者にアピールすること、町内会活動に若いエネルギーを導入するという目的に対し、なぜジャズなのか、年1回のイベントで十分なのか。」「(これまで)本事業以外にも先進的とする他の事業を行ってきたようだが、そのことにより町内会や地域に具体的にどのような効果があったと認識しているか。」との意見がありました。

■ 委員長

- ・それでは皆さんからご意見をお願いします。
- ・結構意見が出ていますので、ここ(資料)に質問がほとんど出ている感じですかね。

■ 委員

- ・一回だけのイベントで終わりそうだとということがすごく見えるので、次につなげる何か弱い気がします。

■ 委員長

- ・イベントを一回やって、地域の連帯意識を強めるというところまでいくかどうか。ちょっと一回では難しいかも知れませんね。
- ・きっかけということになればまた別ですけども。その辺のストーリーが説明できるかどうかというところですよ。

■ 委員

- ・事業計画書の5番の独創性、先駆性のところで、この事業ばかりではなく、三味線のコ

ンサートとか、これらのひとつなのかなという感じで。若い人を引き込むイベント？行事かな、町内の。

■ 委員長

・ これまではどこでやっていたのかな。シャンソンやお笑いライブとか。会場は別にステージを作らなくてもやれていたのかな。

■ 事務局

・ 室内のイベントになりますので、類家のコミュニティセンターでやられているそうです。

■ 委員長

・ 今回わざわざ屋外イベントにするのはなぜだろう。24万円かけてステージを作って。1時間のステージをやれば終わりになっちゃう。

■ 委員

・ 夏にやるのかな。

■ 委員長

・ そういうことなのですかね。他にも何か入れるのですかね。その中でワイルドウインドさんのステージがあってという流れなのか、ちょっとわからないですけども。

■ 委員

・ 今後も使える何かを買ってということであれば、わかるのですが、一回だけのイベントで終わるのに20何万もというのは無駄なような気がするのですが。

■ 委員長

・ かなりもったいないですよ。

■ 委員

・ このステージの見積もりを見ると、一回だけではなく、ばらして何回も使うような設備じゃないですか。

■ 委員

・ そうなのかな。それによっては話が違ってくるのですが。

■ 委員長

・ そこは読み取れないですね。

■ 事務局

・ 毎年継続して開催したいとのこと。

■ 委員

・ でも、その都度この金額がかかるのか。

■ 委員長

・ 見積もりで材料費を出してもらっていますが、終わったら恐らくこの会社が引き上げますよ。こんな大きなものは置けないですよ。

■ 委員

・ そうかなと思っていました。仮設なので一回きりの値段かなと思っていました。

■ 委員長

・ 置き場所がないですよ、多分。材料ってなんだろうな。

■ 委員

・ これだけのためにこれほどのお金をかけないでしょう。

■ 委員

- ・それによって違うんですよ。一回だけなのであればもったいないなと思って。

■ 委員長

- ・3×6板が24枚といったら、これだけのものを置く場所はないでしょうから。

■ 委員

- ・7メートル20の、5メートル40だったら、ジャズバンドが乗っかるステージだね。

■ 委員長

- ・ええ、組むんですよ。

■ 委員

- ・合板ってこの値段で買えるのですか。

■ 委員長

- ・売る価格で（見積もりを）出しているの。物的には一回使い切りの値段で見積もりを作っていますよね、再利用するのではなくて。いわゆるイベントの場合は、イベント屋さんややる場合はもちろん再利用するので、こういう見積もりは出て来ないですよ。ステージ設営費ということで、一個で出ちゃうんですよ。こうやって内訳まで出しているの、買い取りというか、売り切りのようにも汲み取れちゃうんです。どちらなのかなというのがわからなくて。
- ・だとしたら、来年は組み立て費だけで4万5千円と解体費7万円、諸経費入れても8万円くらいでまた来年も組み立てをお願いしますという話になるのか。そこは書いていないので確認していただきたい。
- ・管理できないですよ。私もイベントをやりますから知っていますけれども。保管場所に困りますからね。そこは確認事項になってしまうかな。
- ・ワイルドウインドビックバンドさんと、類家五丁目の中には、（屋内の）場所がないでしょうね。屋外でやることで何か違うことを見出したいのかということも質問になってしまうかな。

■ 委員

- ・観客としての若者にアピールしたいのですかね。それとも組織体制があつて、そこにもう少し若者を巻き込みたいということであれば、もう少し点数が上がってくる気がするんですけども、そこが全くないので。

■ 委員長

- ・そうですね。さきほどの神輿と同じで、町内で神輿を立ち上げてということならわかりますが、そういうわけでもないの。そこは、イベントをやるだけの企画書になっちゃうの。そこは資料として作られるか、発表でお話されるか。
- ・質問としては出ましたよと。実際、観客席25席だとそのためにこの予算をかけるかというちょっとありえない話になっちゃうからね。25万のステージを組んで25人の椅子を組むとなると、ありえない話になっちゃうの。だったらどこかに会場を借りて、みんなに来てもらった方が予算はかからないかも知れないし。

■ 事務局

- ・観客は200人程度を見込んでいて、椅子は不足分とのこと。

■ 委員長

- ・ 200 人か。なるほど。
- ・ 単純にイベントでしかないので、そこはちょっと肉付けしていただきたいですね。
- ・ 以上 12 件終了しました。時間が押していますので、ここで終了したいと思います。もしご意見がありましたら、4 月 18 日まで時間がありますので、メールで流していただければと思います。それでよろしいでしょうか。これで一旦終わらせていただきます。

次第 4. その他

■ 事務局

～今後のスケジュールの確認～

◇4 月 18 日（土） 平成 27 年度 市民奨励金 公開ヒアリング審査会

12 : 30～ 市庁別館 7 階 会議室 A

- ・ **事前打合せ** 審査会の流れの確認など

13 : 00～ 市庁別館 8 階 研修室

- ・ **審査会** 「元気な八戸づくり」市民奨励金の H27 年度事業（12 件）

◇4 月 23 日（木） 平成 26 年度 市民奨励金事業の評価

18 : 30～ 八戸商工会館 6 階 八戸市会議室 B

- ・ **評価** 活動成果発表会総評の検討など

◇5 月 17 日（日） 平成 26 年度実施事業 協働のまちづくり「活動成果発表会」

13 : 00～ 八戸ポータルミュージアムはっち 5 階レジデンス B

- ・ **事前打合せ** 発表会の流れの確認など

13 : 30～ 八戸ポータルミュージアムはっち 1 階 はっちひろば

- ・ **発表会**
- ・ 市民奨励金 H26 年度交付事業（6 件）
- ・ 市民提案制度 1 件

次第 5. 閉 会

（司会：事務局）

以上